

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（1月定例会）会議録
開催日時	平成29年1月16日（月）15時00分から17時00分まで
開催場所	保谷庁舎1階 会議室
出席者	委員：内田議長、木下副議長、岩崎委員、川崎委員、須永委員、沼本委員、服部委員、原委員、森田委員、矢野（真）委員、小林委員、矢野（尊）委員 事務局：岡本課長、神田係長、奥住主事
議題	(1) 今後の活動について (2) その他 ①社連協第4ブロック活動報告（案）について
配布資料	資料1 提言の検討に向けて（案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>●平成28年12月の定例会議の会議録について承認する。</p> <p>（1）今後の活動について ※事務局より、資料1「提言の検討に向けて（案）」に沿って説明。</p> <p>○議長：前回会議にて、平成23年12月に「西東京市における『放課後子供教室』のあり方について（提言）」が出されたが、その後、放課後子供教室は西東京市で定着しているのかという話が挙げた。全校で実施しているが、課題等の見直しも含めて、今一度、放課後子供教室について取り上げることを提案する。加えて、3月に実施する委員研修会を今後の活動テーマに則</p>	

した内容にしてはどうか。放課後子供教室を取り上げた理由は、この事業は、子供たちの地域の中での過ごし方について、どの子供も同じように生活が送れている訳ではないことを踏まえた上で、放課後の居場所の提供として子供たちを支援できるものだと思うからである。

- 委員：実際に従事していると、放課後子供教室のそもそもから考えさせられることもある。特に資格は持たず、様々な子供への対応を想定するのは難しいと思う。学校側からは、勉強の補助を望まれていたり、楽しく過ごせる場の提供を望まれていたり、続ければ続けるほど分からなくなり、各校で違いが出てくるものであると感じている。どうすれば西東京市立小学校全校で地域の人たちと放課後子供教室に取り組めるのかということを考える必要がある。
- 委員：放課後子供教室という名称にどのような内容が含まれているのか調査してはどうか。学童との連携も、学校の敷地内の学童と敷地外の学童で違いがあると思う。
- 事務局：学童との連携は、児童青少年課と調整しながら進めている。
- 委員：前提となる情報について調査するのが良いと思う。
- 委員：小学校として放課後子供教室には何を期待しているか知りたい。
- 委員：学校施設開放運営協議会（以下「運協」）が中心となり取り組んでいる。実態として、人材の確保が一番の課題だと感じる。校庭で遊ぶ様子を見守ることで手一杯で、企画が提案されても担当する人がいないので取り組めないところもある。
- 議長：1人でもリーダーシップを執る人がいればよいが、各学校によって放課後子供教室の捉え方や取り組み方が違うので、実態を知る必要があると思う。運協の事業内容について整理し、どうすれば放課後子供教室に取り組みやすくなるのかについて考える必要があるのではないかと。過去に提言をしているので、5年経った今の実態を調査し、より取り組みやすい事業になるよう検討しても良いと思う。
- 委員：提言後の現場の変化について調査をすると良いと思う。そのために、実態をしっかりと知る必要がある。地域生涯学習にしても放課後子供教室にしても、運協の人材不足が課題であると思う。
- 委員：テーマは放課後子供教室についてで決定なのか。また、どのような形でまとめるのか。
- 議長：テーマやまとめ方についてはまだ決定していない。
- 委員：放課後子供教室と地域生涯学習はどちらも運協が関わっている。そこで、人材確保の問題や何を目標として活動しているのかということと、運協という組織がより積極的に動いていける力を持っているのかということをおもしいのではないかと。放課後子供教室について取り組むのであれば、実際に従事している人から話を聞いた方が良いと思う。また、それぞれで認識の違いがあると思うので、複数の人に話が聞けると良い。それらと過去の提言とを合わせれば、理解が深まるのではないかと。思う。
- 委員：市立小学校全校での実施によって、市内の子供たちへの支援が共通して可能となる。
- 議長：地域生涯学習も放課後子供教室も、地域と地域の人のために地域の人が、とい

う部分では同じだと思う。地域生涯学習が定着した後に、放課後子供教室がどんどん取り組まれてきたと思うが、地域生涯学習の方で得たノウハウを生かすことはできないだろうか。

- 委員：自分は、地域生涯学習事業を進めていたときに、学校施設を使って学びの場を提供することが地域生涯学習であると認識していた。その対象を大人なのか子供なのか検討していたところに、放課後子供教室というのが出てきたという印象でいる。子供や従事者だけでなく、保護者の考えについても確認する必要があると思う。今の実態を調査・検証するだけでなく、5年後、10年後に同じように取り組めるのかという点も考える必要がある。
- 議長：放課後子供教室はとても良いと思うので、誰もが行っていけるような放課後子供教室事業にならなければいけないと思う。
- 委員：最近、子供の放課後の居場所づくりに民間企業の進出が増えていることも考慮する必要があると思う。
- 委員：誰か1人でも、積極的に取り組む人がいれば、その学校の放課後子供教室は続いていくし、進んでいくと思う。しかし、自分たちが中心になって「やらなければいけない」という負担感のある人もいるので、全校同じようにというのはなかなか難しいところもあると思う。
- 委員：学習事業を展開するには場所が必要だが、学校によって、児童数が増えているところでは使える教室数にも限りがある。そして、運協によっても違いが出ると思う。保護者は賛同していることが多いが、いざ手伝うとなると、忙しいということもある。また、放課後子供教室での責任や成果と課題をきちんと整理する必要があると感じる。放課後子供教室の狙いは、コミュニケーションや豊かな体験学習だと思う。多様な子供がおり、人によってはかなり支援が必要なのが想定されるため、学校と運協の連携は不可欠である。教育カリキュラムの変更等があり、学校側に余裕がない場合もある。このような現状があることも留意いただきたい。
- 委員：放課後子供教室は民間企業の事業が伸びており、保護者のニーズを受けて企画されたものが多い。平成23年6月の「全員参加の地域づくりについて（提言）」にある、小学校を利用した地域づくりを中心に実態を調査し、提言からの成果と評価を検証してはどうか。市立小学校全校の実態を調査・検証するのは厳しいと思う。
- 議長：1つの課題に絞るのではなく、学校を中心とした地域づくりについて取り組むのも良いと思う。また、学校施設を利用している団体にも積極的に地域活動に参加してもらいたい。
- 委員：これまで我々がテーマとしてきた、循環型の地域学習社会にも通ずるものがあると思う。
- 委員：次に繋がるのかを考えることが大切であると思う。
- 委員：地域の人にこだわるのも良いが、市内の大学と連携して取り組むのも良いと思う。
- 委員：仕組みや体制を一度整理してはどうか。
- 議長：2月6日に打合せ会をし、放課後子供教室だけではなく、学校を軸とした地域づくりをテーマとする方向で検討を進めたいと思う。可能な限り出席をお願いする。

(2) その他

①社連協第4ブロック活動報告(案)について

※事務局よりブロック活動報告について説明。

○議長：それでは以上で社会教育委員の会議1月定例会を終了する。

※次回会議 平成29年2月20日(月)午後2時から